

寄付・寄贈

匿名希望 3名

ありがとうございました。心より感謝申し上げます。
(令和8年1月15日～令和8年3月15日)

寄付金(令和7年度)累計額 4,428,700 円

ラーメンあったか調理実習



生活介護事業所 部長 東中尾 竜治

昨年令和7年10月、当施設ではNPO法人「明」による出張ラーメンサービス「ラーメンあったか」を招き、調理実習を実施しました。ご利用者の皆さまには希望に応じて、タレ作り、麺ゆで、器への盛り付け、トッピングなどを担当していただき、ラーメンを一から作る体験をしてもらいました。初めての工程に興味を示す方や、なじみの味を施設で味わえることを喜ぶ方が多く、出来上がったラーメンを前に満足そうな表情が広がりました。ほかの事業所スタッフとの受け渡しや、「ありがとう」「美味しかった」といった挨拶のやり取りは、ご利用者にとって交流のきっかけとなり、良い刺激にもなりました。味は、しょうゆ・塩・みそに加え、大盛りにも対応し、ほとんどの方が完食して達成感を得られました。好評につき、令和8年度も予定しており、今後も地域資源を活用しながら、交流と体験の機会を広げていきます。ご利用者の主体性を引き出すプログラムとして継続的に工夫し、多様な場面での参加機会をさらに増やしていきます。



トイレ・脱衣所をより快適に！



このたび、ご利用者の皆さまの健康と安全を守るため、共同生活援助事業所および短期入所事業所の各トイレ・脱衣所に冷風・暖房機の設置が完了いたしましたのでご報告申し上げます。夏場はトイレや脱衣所の室温が上がりやすく熱中症のリスクが高まること、また冬場は居室との温度差による血圧の急変動（ヒートショック）が心配されることから、年間を通じて安全で快適な室温を保てるよう整備いたしました。今後も皆さまが安心して日常生活を送れる環境づくりに努めてまいります。

編集後記

皆さまにおかれましては、春暖の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。本号では、クリスマス会・新年会などの季節行事や調理実習の様子をお届けするとともに、当法人理事長の受賞作品「グループホームでのターミナルケアの実践」についてご紹介しております。ご利用者の皆さまの高齢化が進むなか、一人ひとりの暮らしに最期まで寄り添う支援のあり方を、法人全体で改めて見つめ直す一年となりました。笑顔の日々を大切にしながら、これからも安心して生活が続けられる環境づくりに努めてまいります。本誌へのご支援とご愛読を心よりお願い申し上げます。(担当 森・池田)



特定非営利活動法人 だんでらいおん

たんぽぽ通信

No.49

令和8年春号

—— 障がいの重度化・高齢化、親の高齢化に対応できる共生型の施設作り及び地域社会を目指して ——

発行元：特定非営利活動法人 だんでらいおん
発行責任者：久保 哲哉
〒546-0023
おさか し ひがしすみよし く や た
大阪市東住吉区矢田5-9-8
TEL：06-7668-1101
発行日：令和8年4月17日

グループホーム ～あるご利用者からのメッセージ～

常務理事 兼 統括施設長 辻 正晃

令和8年1月24日(土)、大阪市社会福祉研修・情報センターにおいて、「みおつくし福祉・介護の仕事きらめき大賞2025表彰式」が開催されました。

本表彰は、福祉・介護の現場で働く方々から、ご利用者やそのご家族との関わり、職員同士の連携など、やりがいや魅力が伝わるエピソードを募集し、市民に広く周知することで、福祉・介護のイメージ向上と、働く方々のやりがいを支えることを目的として実施されています。当日は、賞状の授与のほか、受賞者の皆さまから、受賞作品や所属法人・事業所についての報告が行われました。

当法人からは、久保理事長が「グループホームでのターミナルケアの実践」と題した作品で応募し、数ある応募作品の中から特別賞を受賞いたしました。本作品は10年以上前、グループホームで生活されていた強度行動障がいのあるご利用者に末期がんが判明し、すでに転移も認められ、余命3か月と告知されたことから始まる実践報告です。ご本人の思いに寄り添いながらケアを続ける一方で、入院を勧める声がかかる場面などもあるなか、ご家族や職員は葛藤や悩みを抱えながらも懸命にケアに向き合い続けました。そして、グループホームの居室で、ご家族や仲間、職員に囲まれなが

ら安らかに旅立られるまでの経過と、実践を通して見えてきた課題や今後の展望が語られています。障がい福祉に30年従事してきた久保理事長の数ある実践の中から、今回このエピソードを選んで応募したこと、そして特別賞をこのタイミングで受賞できたことには、どこか運命的なものを感じております。

それは、当法人が昨年11月に創立20周年を迎え、グループホームのご利用者も50歳を過ぎてきた頃から、ADLや骨密度の低下、それに伴う体調面の変化や骨折の増加などが顕著となっています。こうした健康面の課題については、「もう少し先のことかな」と考えていた面もありました。だからこそ今回の作品の主人公であるご利用者が、早期発見・早期治療、高齢化に備えた福祉用具の活用や環境改善など早急に取り組むことの大切さを示し、「ホームの仲間のこれからの人生をよろしく」という思いを込めて、支援者である私たちへ啓示のように語りかけてくださっているのではないかと…そう思わずにはいられません。

医療面については、訪問診療・訪問看護のご協力と連携が不可欠です。一方で、QOLが置きざりにならないよう丁寧に検討しながら支援を行なうこと、また、ご利用者だけでなく、関係職員が抱える介護に対する不安への対応やメンタルケアにも取り組むことが必要だと考えております。さらに、このエピソードを財産として法人内で語り継ぎつつ、これからの取り組みを発信していくことで、ご利用者が安心して生活が続けられるグループホームが増えることを期待しています。





令和7年12月25日、長居障害者スポーツセンターにてクリスマス会を開催しました。当日は何と40年ぶりというクリスマスの雨でしたが、会場の中はひと足早い熱気と笑顔であふれていました。ご利用者の皆さまは雨にも動じることなく落ち着いた様子で入場され、その穏やかな表情がこの日への期待の高さを物語っているようでした。

午前中はレクリエーションからスタート。まず全員でクリスマスソングの合唱を楽しみました。「ジングルベル」や「あわてんぼうのサンタクロース」のメロディーに沿って歌声を合わせていく様子は、クリスマス会のスタートをしっかりと飾っていただけました。普段は控えめな方もこの日は笑顔で口ずさんでいらっやいました。続いて昨年の活動の振り返りムービーを鑑賞。みんなで訪れた大阪万博の映像に、ご自身のお姿を見つけて反応されるご利用者の姿が微笑ましく、楽しかった思い出がよみがえる時間となりました。

次は事前に模造紙で手作りした大きなクリスマスツリーに、ご利用者の皆さまがオーナメントや星を思い思いに貼り付けていきました。「ここに貼ろう」と真剣に場所を選ぶ方、嬉しそうに飾りを手に取る方、あっという間に色とりどりのツリーが完成。世界にひとつだけの、皆さんの手で作り上げたクリスマスツリーに会場が華やぎました。



午後からは楽しみにされていた昼食です。事前に希望のお弁当（オードブルやオムライスなど）を選んでいただいた特別感もあり、うれしそうな表情でお弁当の蓋を開けていらっしゃる姿が印象的でした。食後のクリスマスケーキに目を細める笑顔も、とても素敵でした。

午後のレクリエーションは「歌詞虫食いクイズ」と「ダンス玉入れ」の二本立て。クイズでは音楽好きのご利用者が率先して答えられ、自信満々に答える姿に拍手と笑いが響きました。ダンス玉入れでは、音楽に合わせて踊りながら、止まったら一斉に玉入れ開始というユニークな競技に全員が積極的に参加され、あっという間にカゴはいっぱいに。会場全体が一体となった、この日いちばんの大盛況の場面となりました。

最後は実行委員が準備したクリスマスカードを新入職員が中心となって配布。受け取った皆さまのうれしそうな笑顔に、職員もあたたかい気持ちでいっぱいになりました。

当日前から「クリスマス会楽しみ!」のお声をたくさんいただき、終了後も「楽しかった!」と笑顔で話してくださったご利用者の姿が今も目に浮かびます。今後も、皆さまに笑顔と楽しい時間をお届けできるよう、職員一同、力を合わせてまいります。



令和7年12月30日、生活介護の年内最終活動日に忘年会を開催しました。今回は、一年を振り返っていたり、ゲームを楽しみながら行いました。

これまでの一年間のさまざまな活動の様子を収めた写真の中から、ご利用者の写真を厳選致しました。ご利用者は、割り箸と糸で作った釣り竿に見立てた道具を使って写真を釣り上げました。釣り上げた写真は大きな絵馬に貼り付け、完成した絵馬を見ながら、それぞれに今年を振り返っていただきました。その後は、和食かこの屋の長居西店と平野区役所西店の2店舗に分かれて、昼食を摂りました。ご利用者は各々のペースで土鍋すき焼きと天ぷら定食（別メニューのご利用



者も若干名あり）を召し上がられていました。

昼食後は、だんでらいおん新館の隣にある「矢田教育の森公園」に集合し、記念撮影を行いました。各班で作成した大きな絵馬を持ち寄り、班ごとの写真や全体写真を撮影しました。

その後は各班に戻り、シュートパッカーゲームや輪投げを楽しみながら、合間に大掃除も行い、忘年会を終了しました。

当日は寒い一日でしたが天候に恵まれ、無事に終わることができました。ご利用者の一年の良い締めくくりとなりました。



中で新年のスタートを切ることができました。続く昼食会も穏やかに進み、皆様が和やかに

食事を楽しまれている様子が印象的でした。住吉大社の広い境内では、参拝や散策、集合写真の撮影など、それぞれに思い思いの時間を過ごしていただき、普段とは違う表情も多く見られました。

ご利用者同士の交流や笑顔が自然と増え、気分転換や情緒の安定にもつながる有意義な機会となりました。季節を感じられる催しを大切にしながら、思い出に残る行事を今後も企画してまいります。